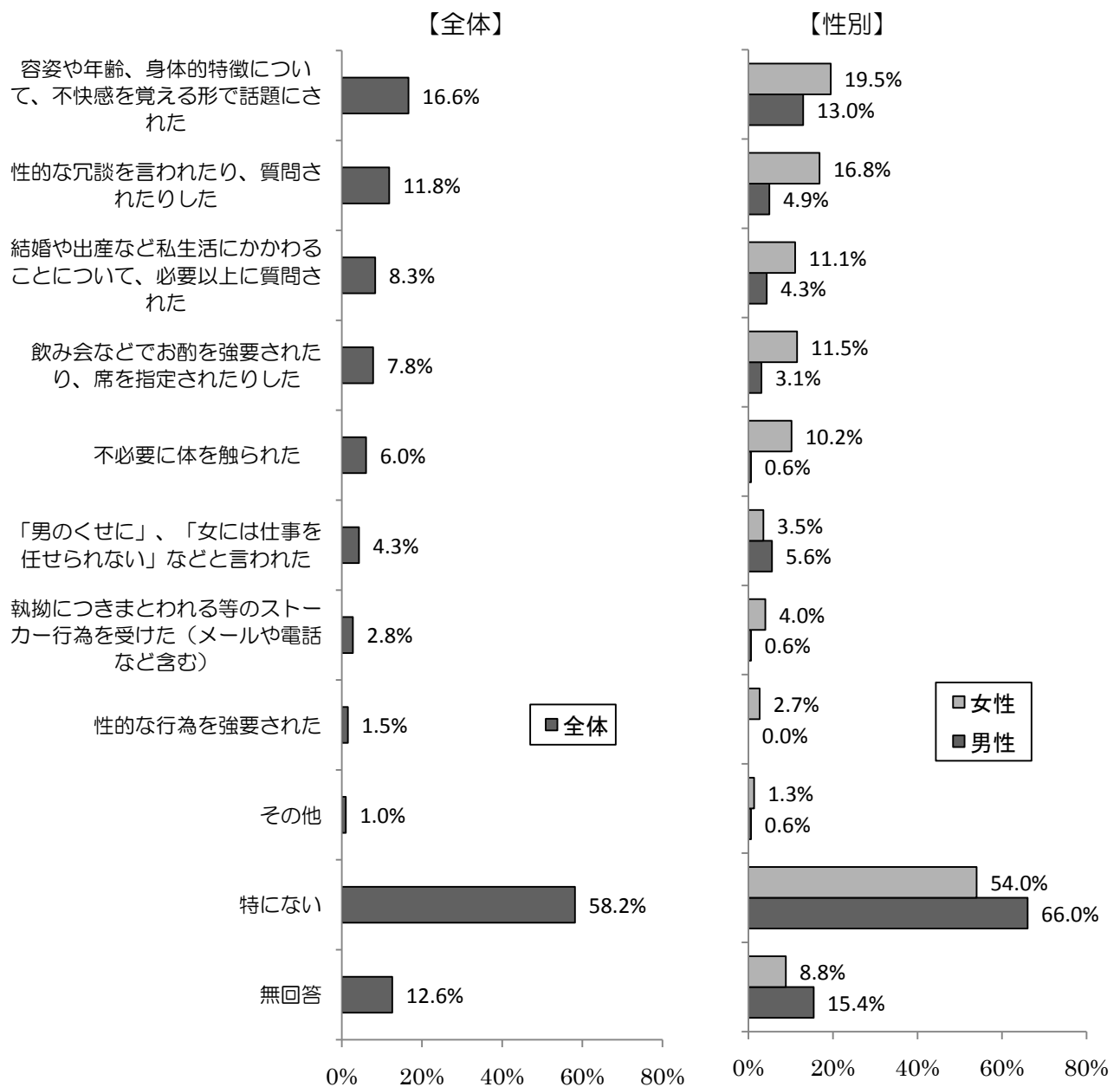


問 17 あなたは職場や学校、地域活動などで、次のような「セクシュアル・ハラスメント（＊）」を受けたことがありますか（あてはまるものすべてに○）



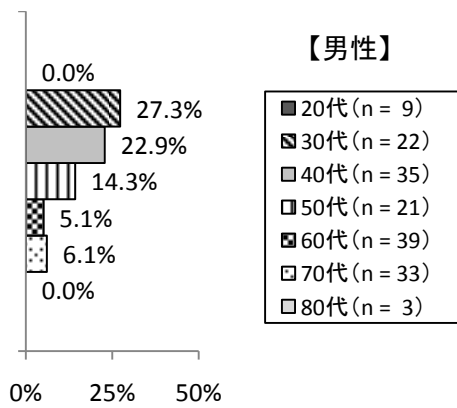
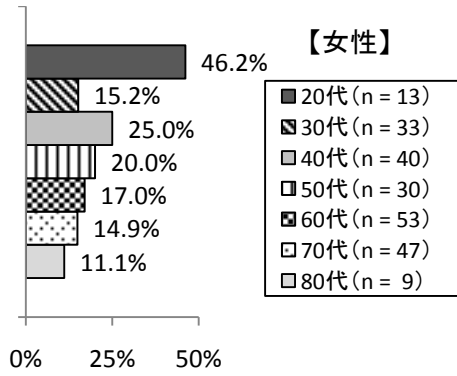
全体でみると、「特にない」「無回答」を除いた 29.2%の人がセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答している。その中で、「容姿や年齢、身体的特徴について、不快感を覚える形で話題にされた」が最も多く、特に 20 代女性では 46.2%を占めている。次いで「性的な冗談を言われたり、質問されたりした」（11.8%）、「結婚や出産など私生活にかかわることについて、必要以上に質問された」（8.3%）と続いた。

<「その他」の回答>
結婚＝退職の職場の暗黙の了解で異動させられて、結局退職に追い込まれた／対象外／言葉による不快感 など

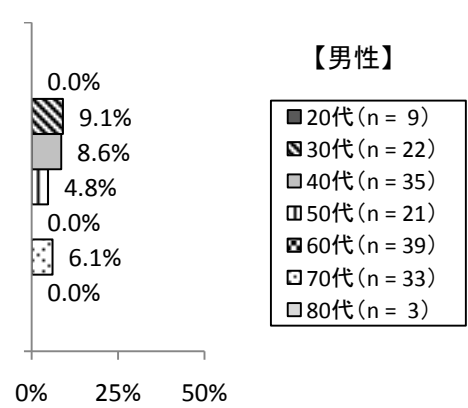
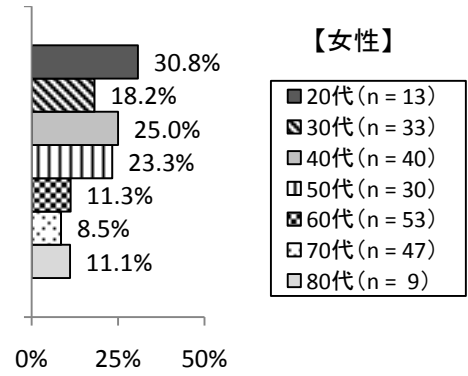
（＊）セクシュアル・ハラスメントとは、性的嫌がらせをしたり、相手方の意に反する性的な言動によって不利益を与えたり、職場環境を悪化させることをいいます。

＜性・年代別＞上位4項目

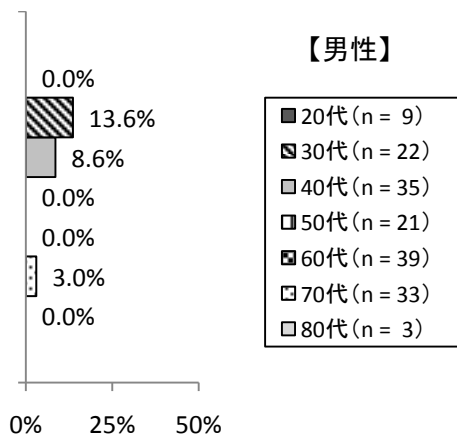
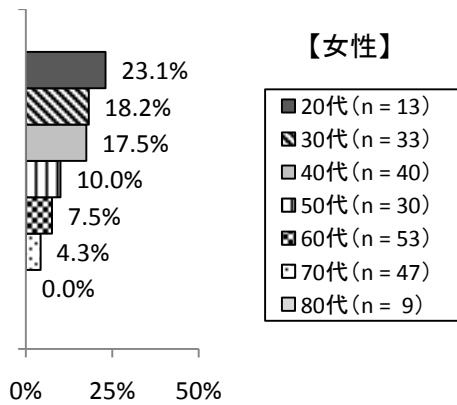
容姿や年齢、身体的特徴について、不快感を覚える形で話題にされた



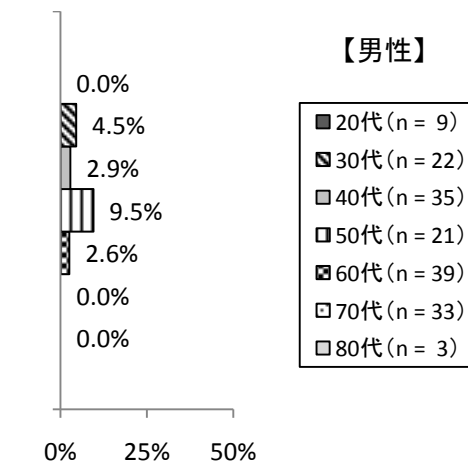
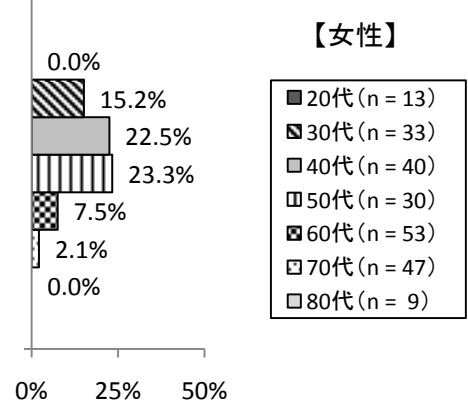
性的な冗談を言われたり、質問されたりした



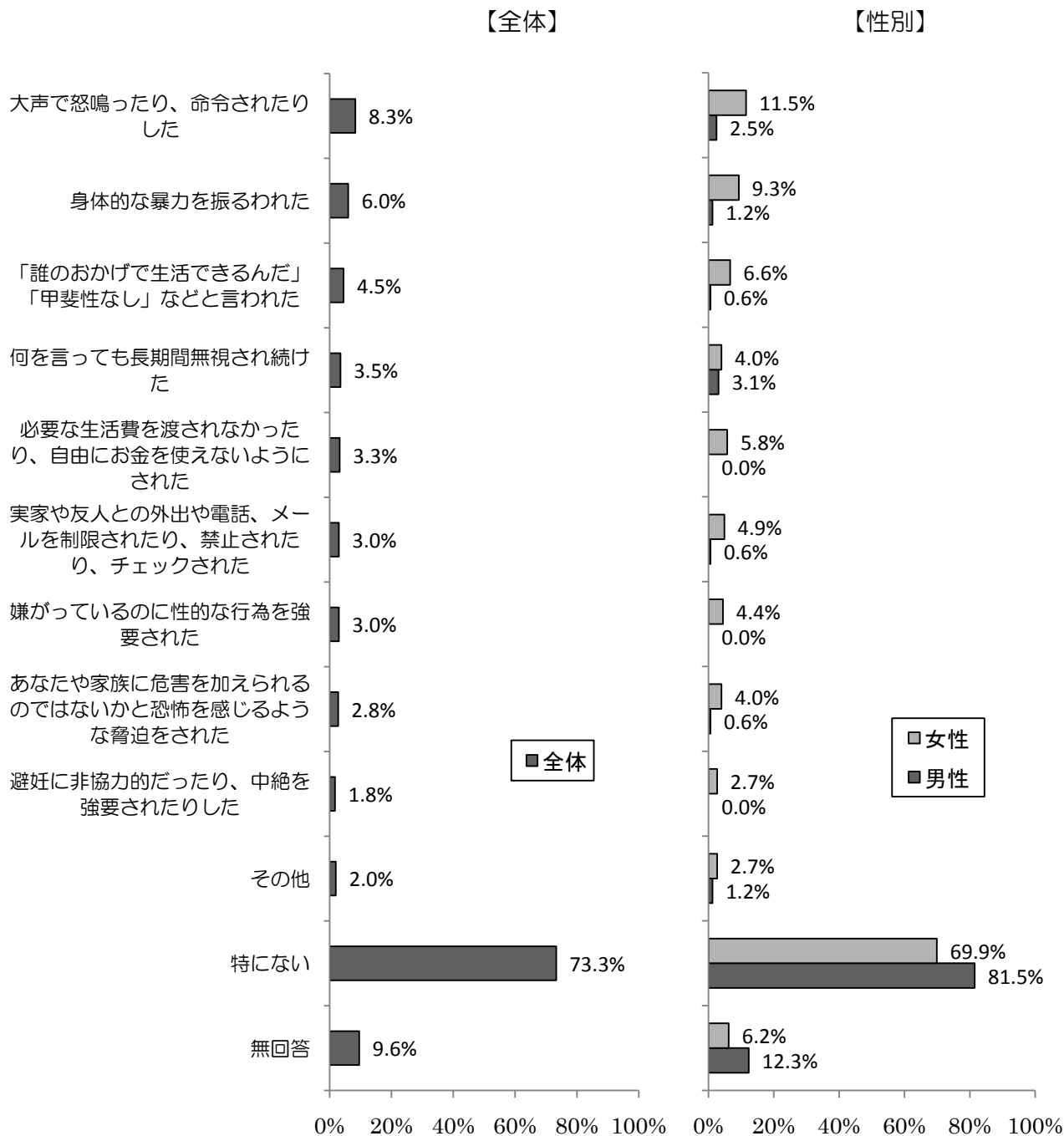
結婚や出産など私生活にかかわることについて、必要以上に質問された



飲み会などでお酌を強要されたり、席を指定されたりした



問 18 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」についてうかがいます。DVは、家族間、とりわけ配偶者やパートナー(*)からの身体的、精神的、性的な暴力をさすもので、DVを防止するための法律として、平成 13 年に「DV防止法」が施行されました。あなたは、これまでに配偶者やパートナーから、次のような行為をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

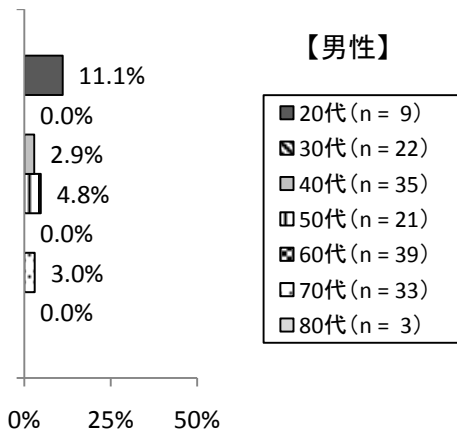
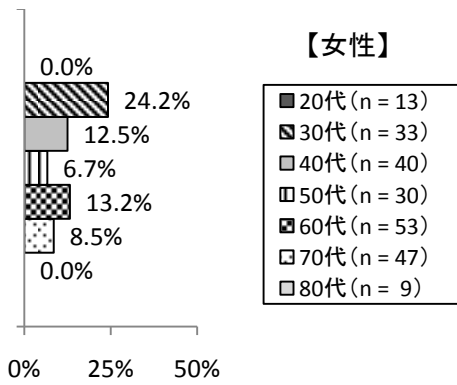


全体で見ると、「特になし」「無回答」を除いた 17.1%の人がDVにあたる行為を受けたことがあると回答している。また、女性の方が割合が高く 23.9%、男性が 6.2%となっている。項目別では、女性は「大声で怒鳴ったり、命令されたりした」、男性は「何を言っても長期間無視され続けた」がそれぞれ最も多かった。

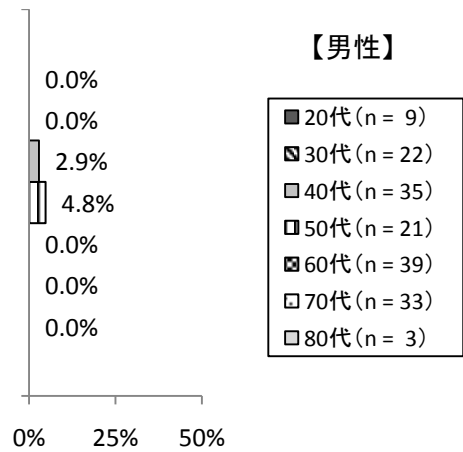
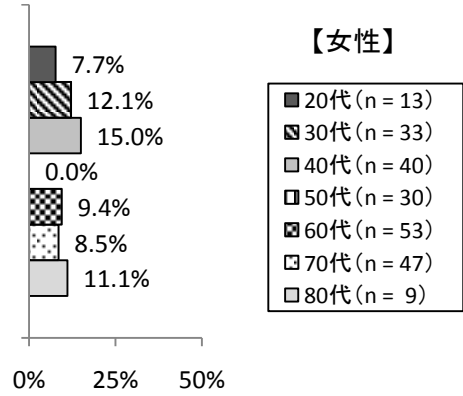
(*)「配偶者やパートナー」とは、夫、妻、元夫、元妻、同棲相手、恋人、元恋人など、一定期間親密な関係にある(あった)相手をさします。

<性・年代別>上位4項目

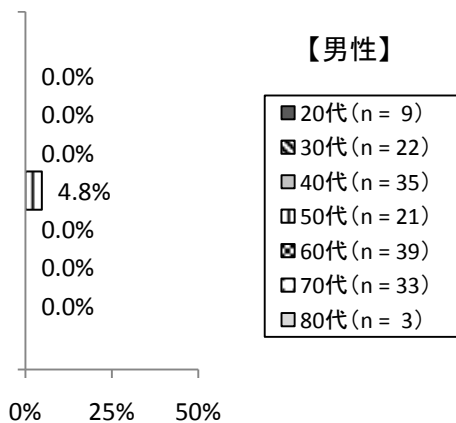
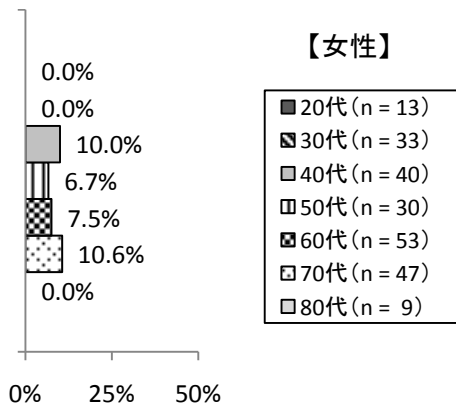
大声で怒鳴ったり、命令されたりした



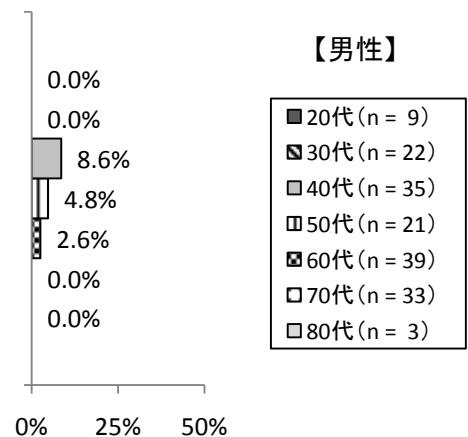
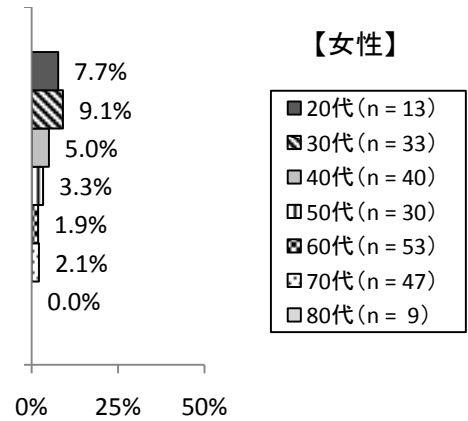
身体的な暴力を振るわれた



「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などといわれた



何を言っても長期間無視され続けた



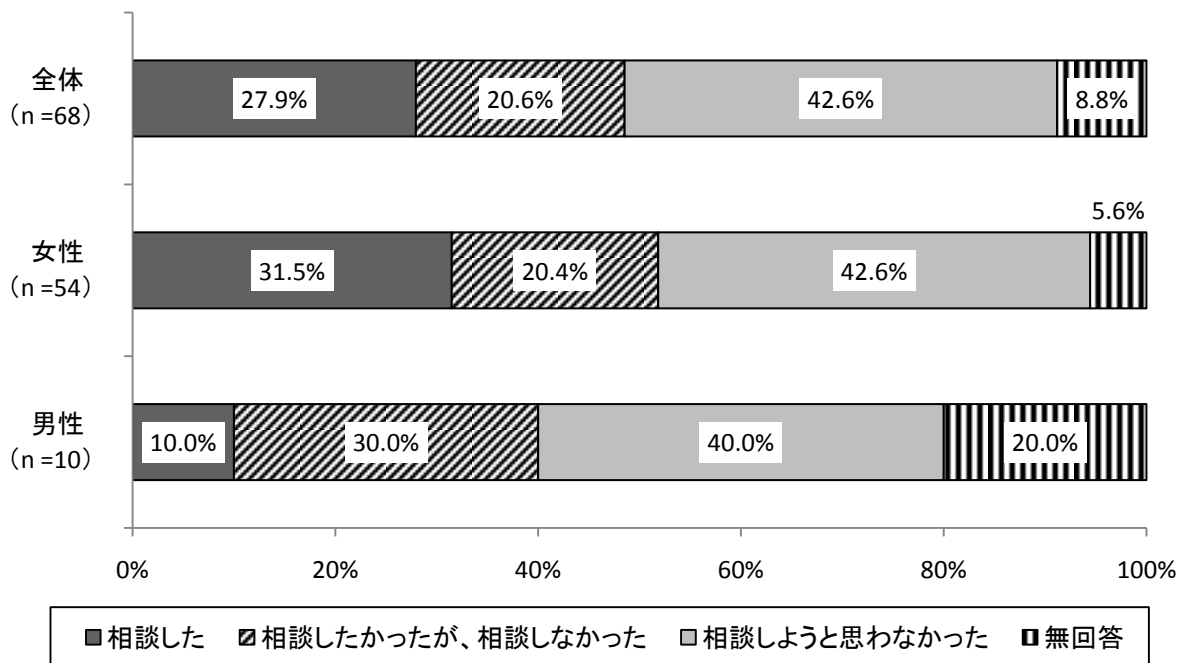
<「その他」の回答>

- ・独身ですが、父親がDVをしていた経験がある。
- ・個人的な意見ですが、DVや暴力は相手のコンプレックスと表裏一体だと思う。女性を見下げたいという根底の男と、馬鹿にされたという思いの果てに自分をコントロール出来なくなって力で抑えようとするのだと感じる。劣等感のなされる業と感じることが多く情けないと思うことが多いですよ。
- ・ささいなミスをあげつらい、言動や趣味、人格などを常に否定された。
- ・警察に連絡?と考えたこと有。

問 18 で「11 特にない」以外に1つでも○をつけた方におたずねします。

問 19 あなたは、問 18 であげたような経験をしたことを誰かに相談したり、打ち明けたりしましたか。(○は1つ)

【全体】



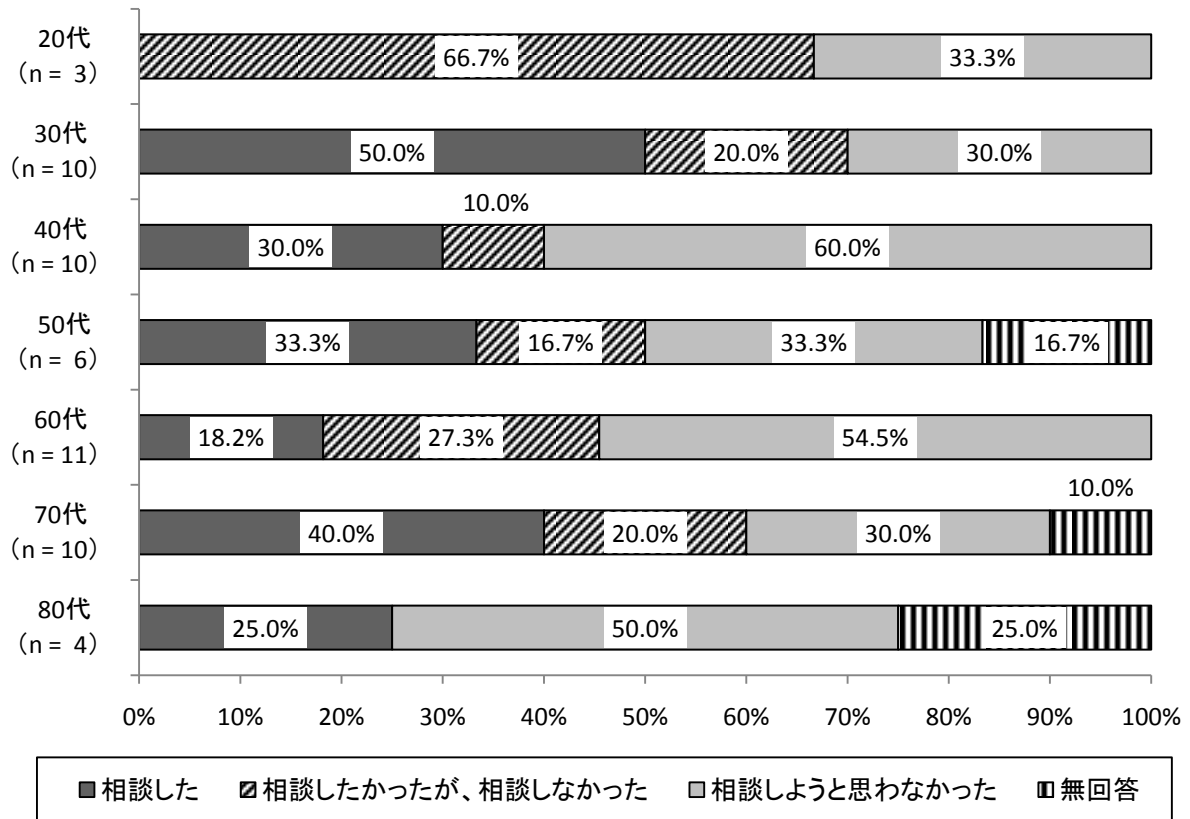
「相談した」と回答したのは27.9%で、性別では女性が31.5%、男性は10%となっている。「相談しようと思わなかった」と回答した人の割合が高く、全体、性別ともに40%を超えている(全体42.6%、女性42.6%、男性40%)。

年代別にみると、女性は「相談した」と回答したのは20代を除く各年代で20~50%が「相談した」と回答している。20代女性は、66.7%が「相談したかったが、相談しなかった」と回答している。

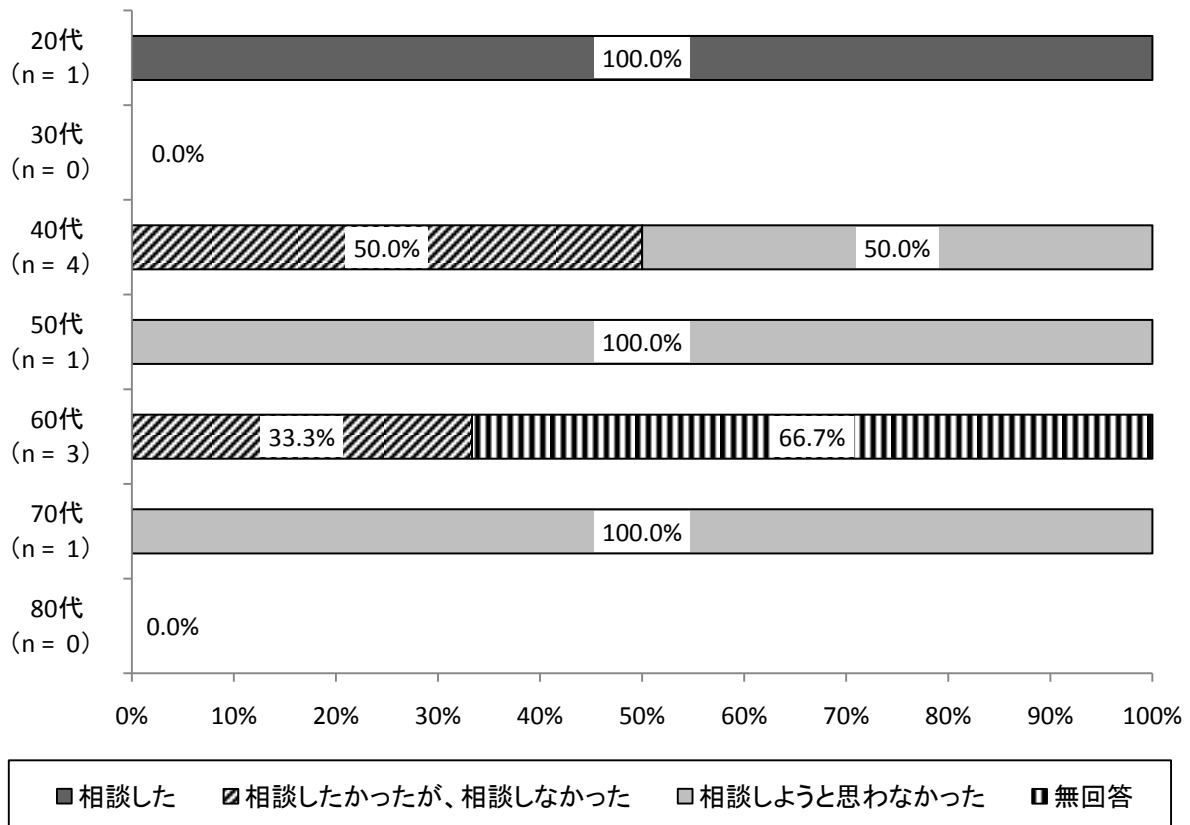
男性は「相談した」と回答したのは20代のみで、40代の50%、60代の33.3%が「相談したかったが、相談しなかった」と回答しており、50代と70代の全員と、40代の半数が「相談しようと思わなかった」と回答している。

【性・年代別】

【女性】

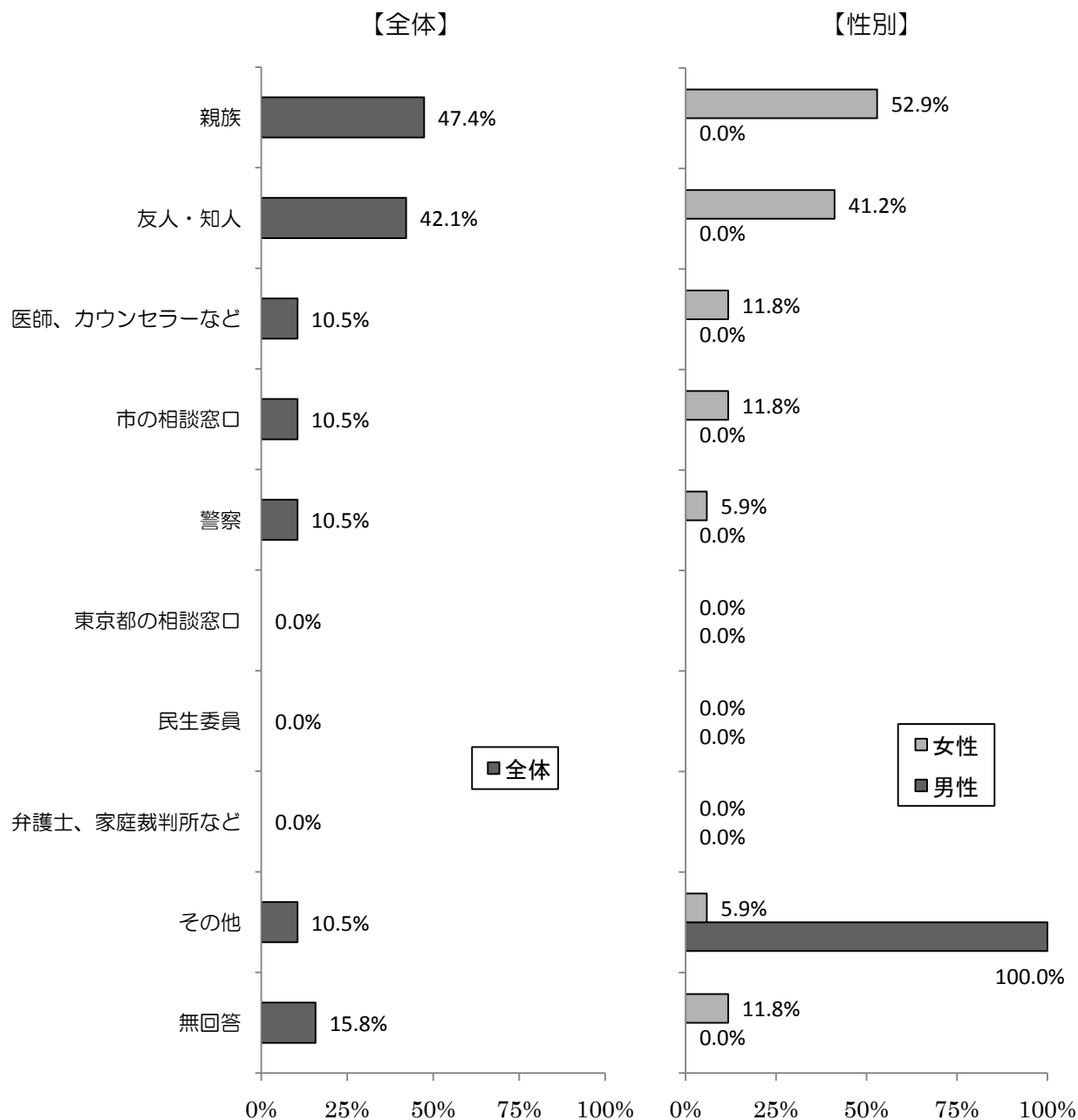


【男性】



問 19 で「1、相談した」と回答した方におたずねします。

問 20 あなたが相談した相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○) (→問 22 へ)



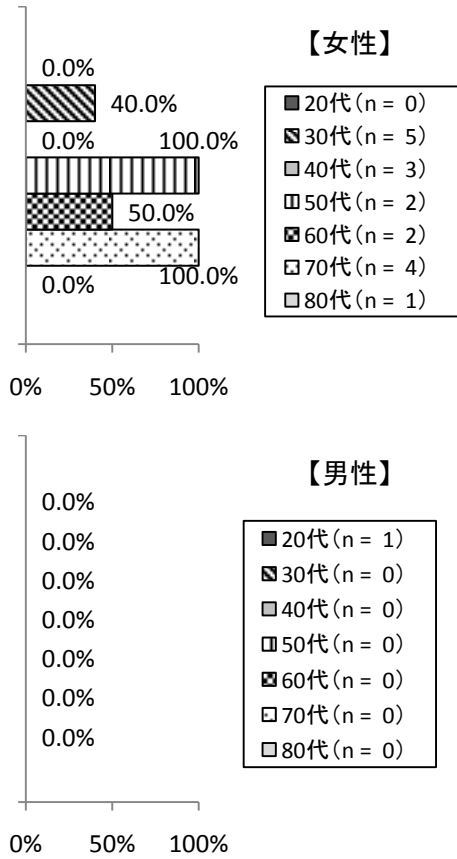
相談相手として最も多かったのは「親族」で、47.4%、次に「友人、知人」42.1%となっている。「医師、カウンセラーなど」「市の相談窓口」「警察」は10.5%にとどまった。

性別にみると、女性は「親族」が最も多く52.9%、次いで「友人、知人」が41.2%となっており、男性は「その他」のみとなっている。

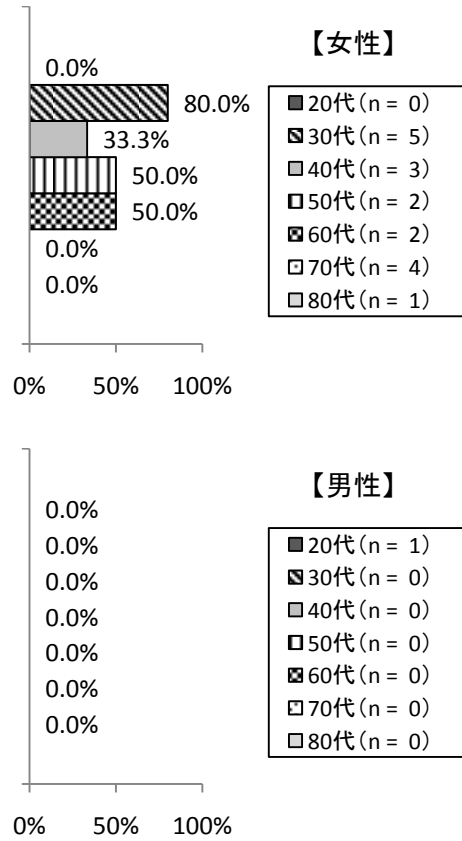
<「その他」の回答>
インターネット掲示板/NPO法人

<性・年代別>上位4項目

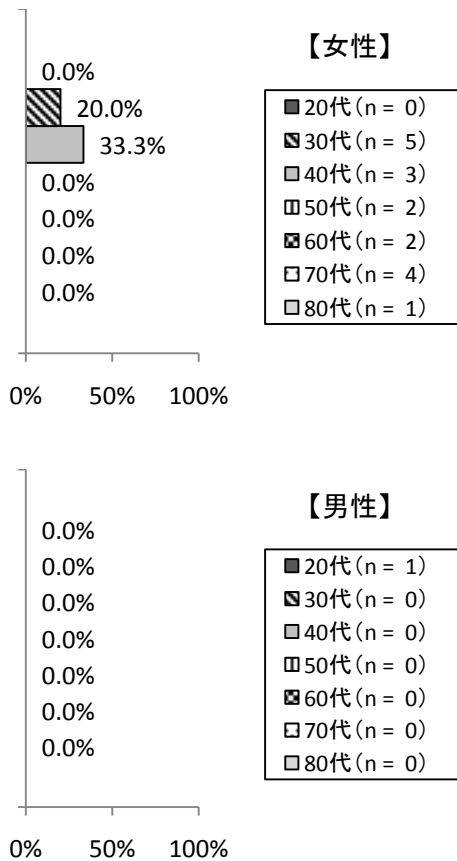
親族



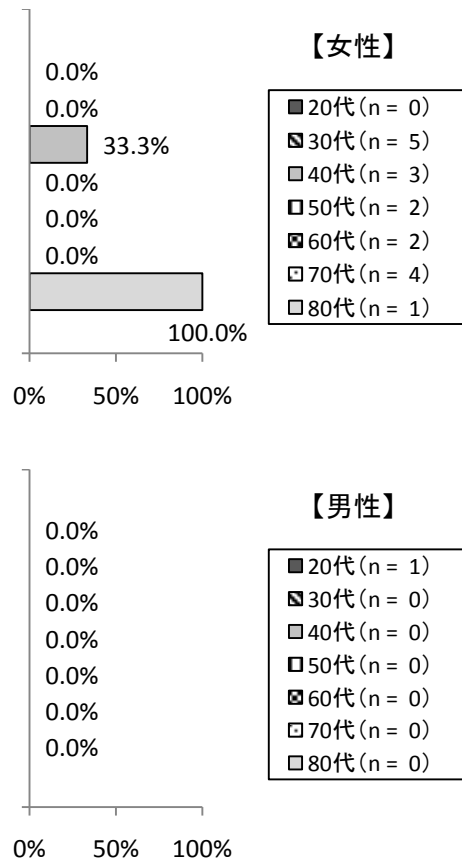
友人・知人



医師、カウンセラーなど

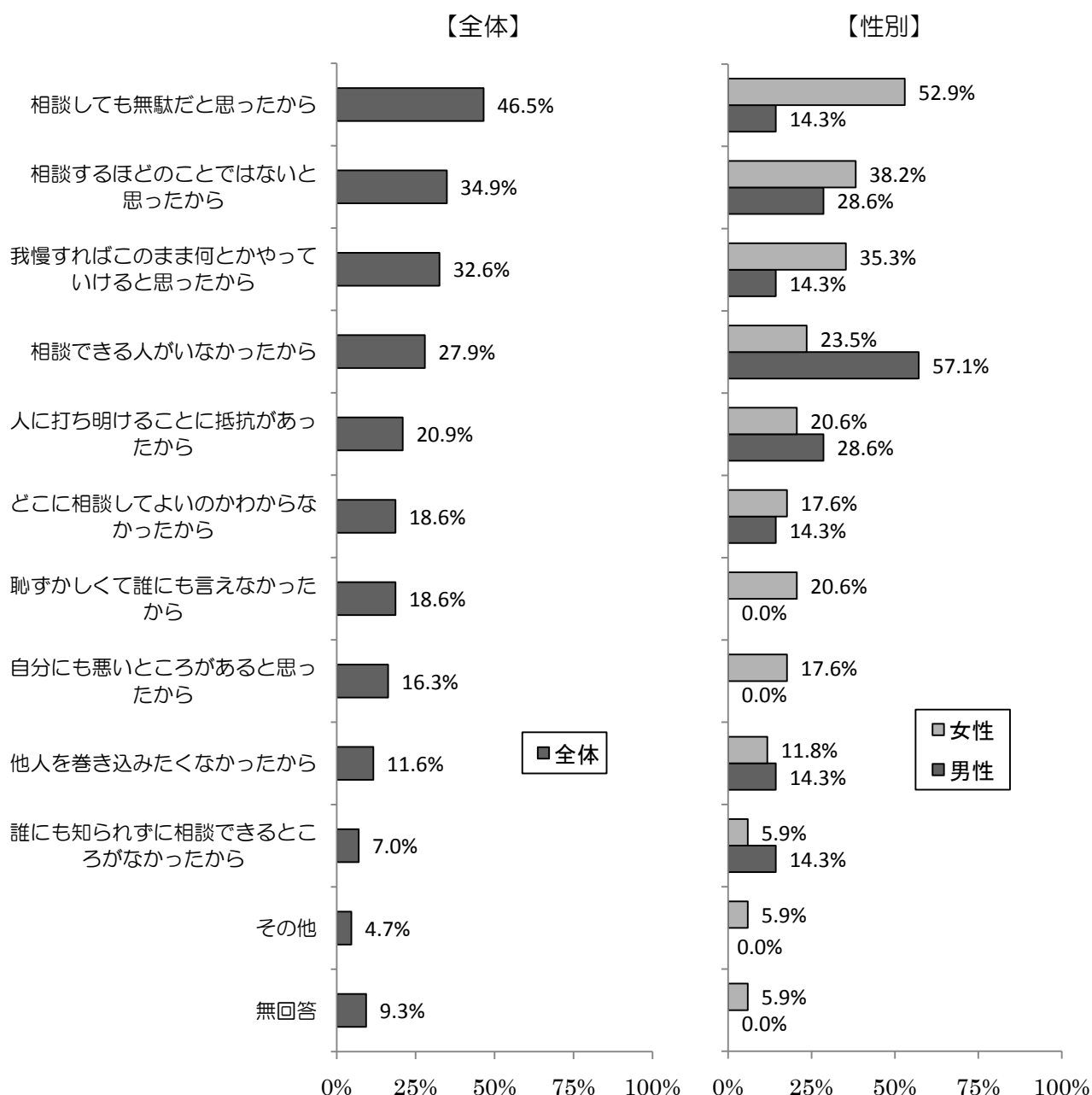


市の相談窓口



問 19 で「2、相談したかったが相談しなかった」または「3、相談しようと思わなかった」と回答した方におたずねします。

問 21 その理由は次のうちのどれですか。(あてはまるものすべてに○)



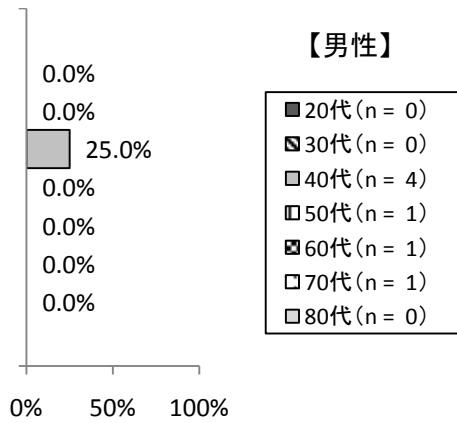
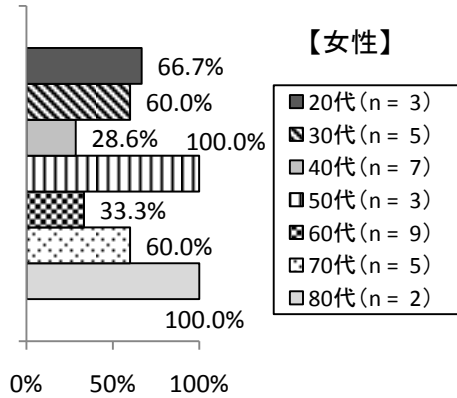
最も多かったのは「相談しても無駄だと思ったから」で 46.5%。次いで「相談するほどのことではないと思ったから」34.9%、「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」32.6%となっている。女性では「相談しても無駄だと思ったから」が 52.9%と最も多く、男性は「相談できる人がいなかったから」が 57.1%と最も多くなっている。

年代別では、女性で最も多かった「相談しても無駄だと思ったから」は 50 代、80 代が 100%となっている。

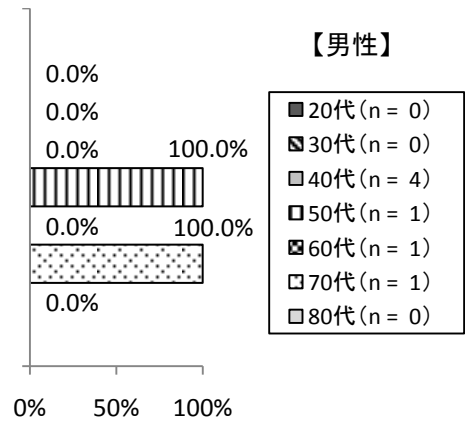
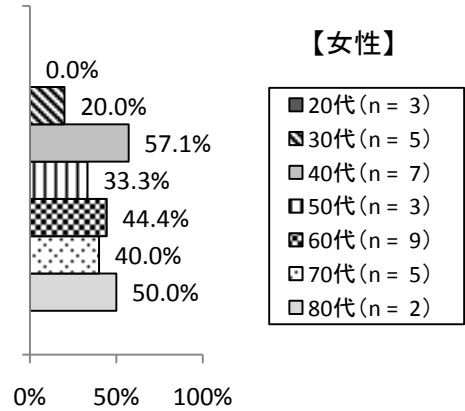
＜「その他」の回答＞
相談できる人だったから／主人の立場を考えたから

<性・年代別>上位4項目

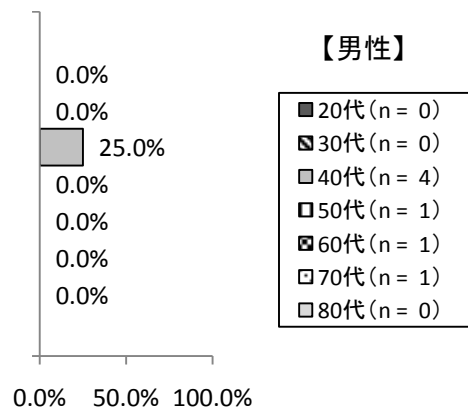
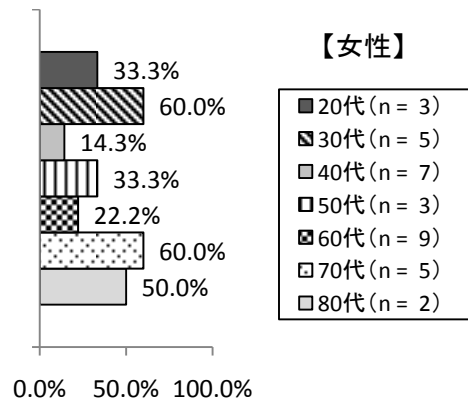
相談しても無駄だと思ったから



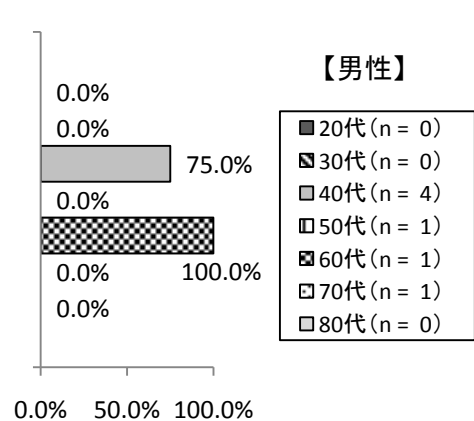
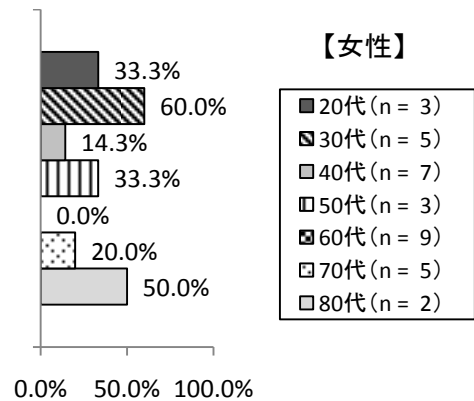
相談するほどのことではないと思ったから



我慢すればこのまま何とかやっていけると
思ったから

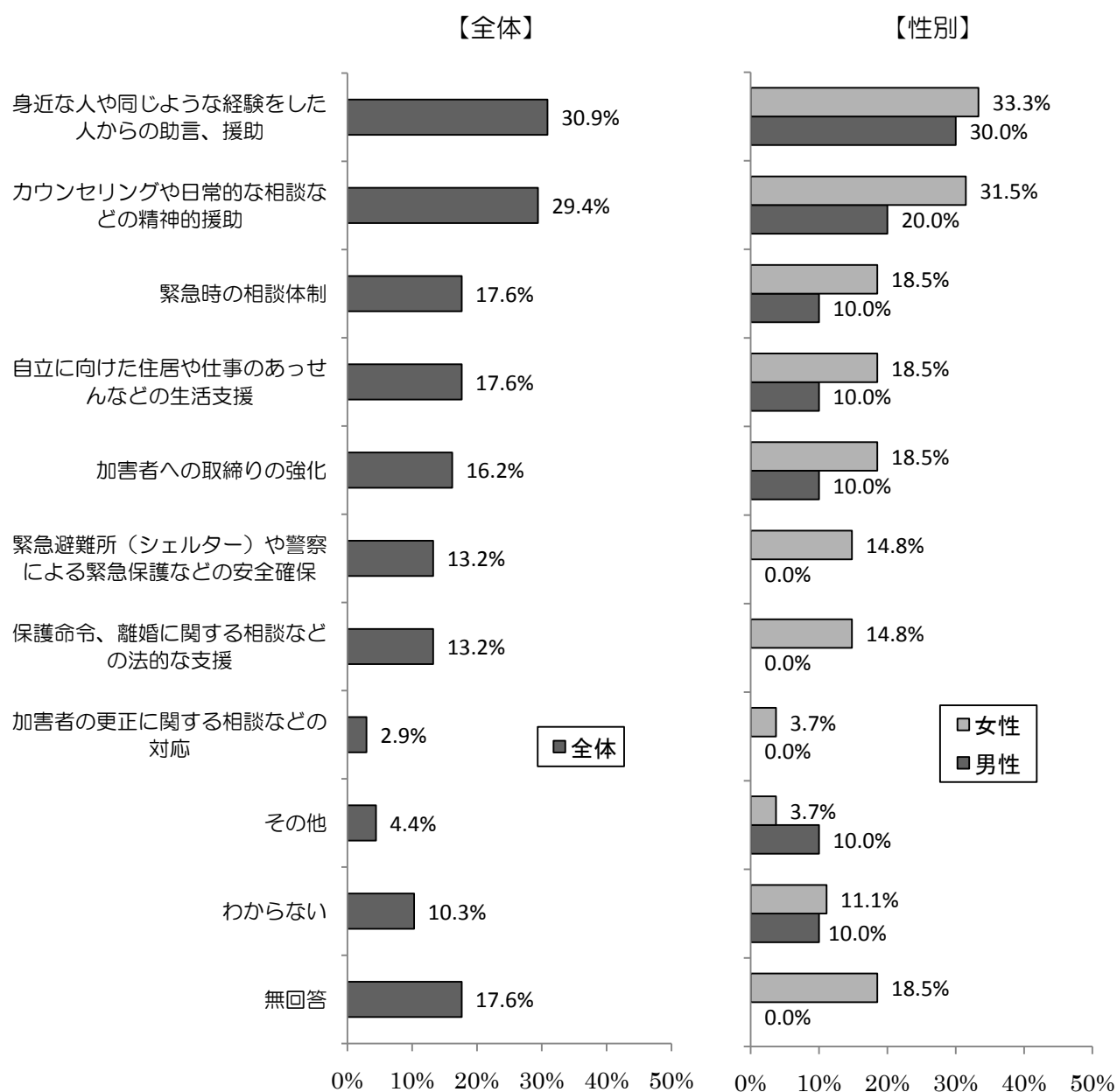


相談できる人がいなかったから



問 20、問 21 に回答したすべての方におたずねします。

問 22 あなたは、その時どのような助けがあればよいと思いましたか。
 (あてはまるものすべてに○)



「身近な人や同じような経験をした人からの助言、援助」が 30.9%と最も多く、次いで「カウンセリングや日常的な相談などの精神的援助」が 29.4%、以下「緊急時の相談体制」「自立に向けた住居や仕事のあっせんなどの生活支援」が共に 17.6%と続いている。

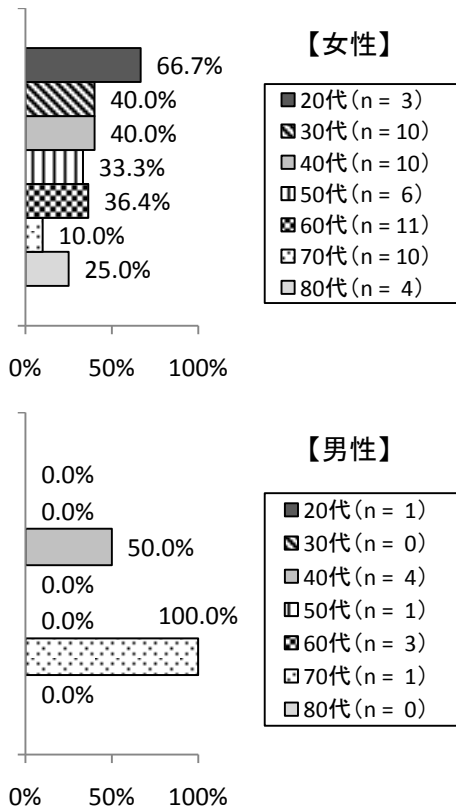
男女ともに、生活支援よりも精神的支援を望む傾向にある。

＜「その他」の回答＞

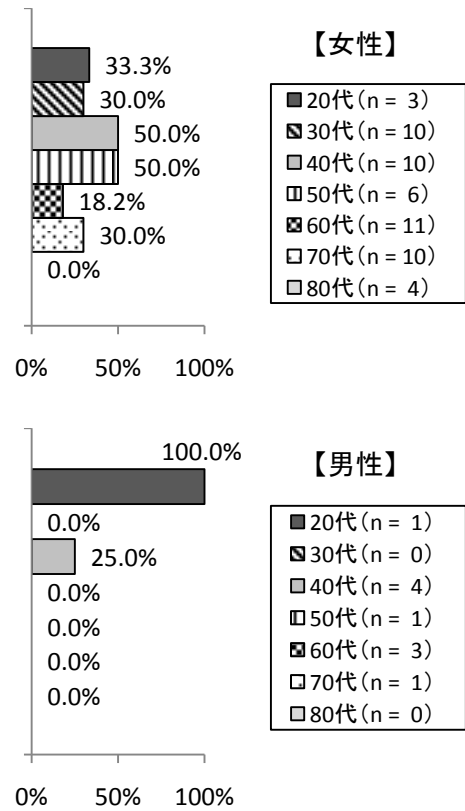
生命に危険がおよぶなら警察へ／DVを受けていると自覚できる為の啓蒙ポスターやチェックリストなど（女子トイレや女子更衣室などに）／助けが必要とは思わなかった

<性・年代別> 上位4項目

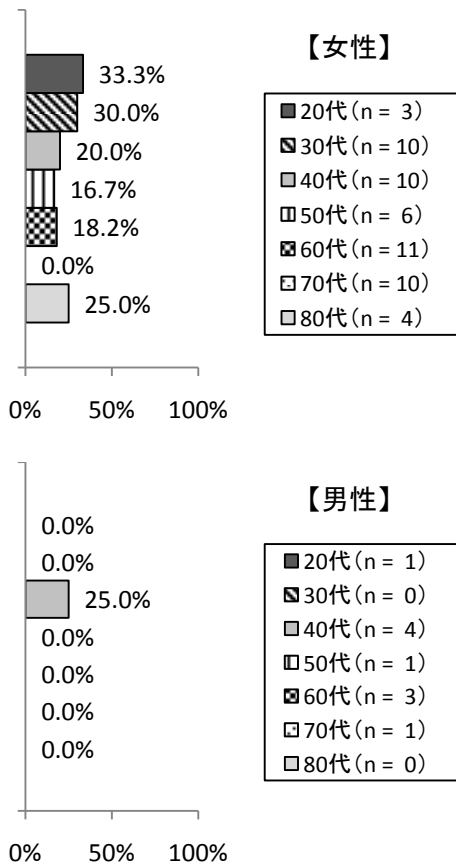
身近な人や同じような経験をした人からの助言、援助



カウンセリングや日常的な相談などの精神的援助



緊急時の相談体制



自立に向けた住居や仕事のあるせんなどの生活支援

